



川の 中流 では、どんな こん虫 が見つかるの

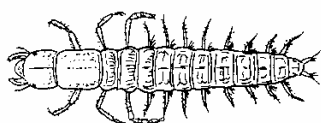
上流 に近い 所 では、石 にはりついたものが多い

中流 でも、上流 に近い山地の川は、流れが速く、川底には大きな石などがごろごろしています。水もきれいです。これらの石の表面には、砂つぶを集めたかたまりのようなトビケラの幼虫がくっついていたり、アミカの幼虫がはりついていたりします。石をひっくり返すと、裏側にはカゲロウの幼虫などが、はりついています。

石の間には、ムカデのような虫が、はっているのが見つかります。これは、ヘビトンボやクロスジヘビトンボの幼虫です。トンボという名前がついていますが、じつは、カゲロウの仲間近く、トンボの幼虫のヤゴとは、形もちがいます。

中流 には、トビケラやカゲロウの幼虫が多い

中流 の川底の小石には、トビケラの幼虫が、クモの巣のような網を張っています。流れがゆるやかになるにつれ、川底は細かい砂がたまった所が増えてきます。砂底に半分もくっつくらず、モンカゲロウの幼虫や、ナベブタムシが見られます。ナベブタムシは、アメンボに近い仲間の肉食の虫で、水中の酸素を呼吸できるため、一生水中でくらしします。カワニナやモノアラガイなどの貝と、それを食べるゲンジボタルの幼虫も発見できます。ヨシがしげった所では、ゲンゴロウなども見られます。(監修・中山 周平)



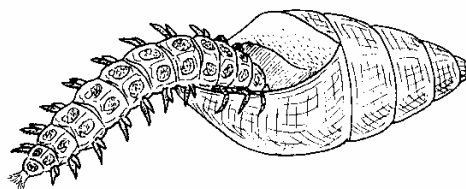
ヘビトンボの幼虫



フタスジモンカゲロウの幼虫



ナベブタムシ



カワニナを食うゲンジボタルの幼虫

